



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はしがき
Author(s)	常本, 照樹
Relation	現代アイヌの生活と意識 : 2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書. 小山透編著
Citation	北海道アイヌ民族生活実態調査報告 : Ainu Report, その1 (日本語版・増刷版)
Issue Date	2012-01
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/48215">https://hdl.handle.net/2115/48215</a>
Type	other
File Information	AINUrep01ja_001.pdf



## は し が き

北海道大学アイヌ・先住民研究センターは、2007年の開設以来、様々な研究プロジェクトを立ち上げ、アイヌ民族との協同を基本方針として事業を推進している。その一つとして、センター兼務教員である小内透教授（教育学研究院）を中心とする社会調査プロジェクトが2008年にアイヌ民族の方々を対象とした生活実態調査を実施した。この調査は、教育・就労・生活・意識といった面から、社会的にアイヌ民族の生活状況・意識を明らかにすることを目的としたものである。北海道による調査が過去に何度か行われているが、調査対象者が少なく、実態を十分に反映しきれていない等の問題が指摘されていた。それらの問題を考慮し、より適切に実態を把握できるような調査を行い、今後の研究及びアイヌ民族政策に反映できるようにすることを目指して調査が実施された。調査の実施にあたっては、北海道ウタリ協会（現・北海道アイヌ協会）の全面的な支援をいただいた。その結果、数多くの世帯票、個人票を回収することができた。

本報告書は、このような形で実施した北海道アイヌ民族生活実態調査の結果をまとめたものである。調査結果の一部は、すでに速報版として当センターのホームページ上で公開している。2009年7月に内閣官房長官に提出された『アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会報告書』にも引用されており、調査の反響は極めて大きかった。今回は、未公表のデータも含めて分析を行っている。さらに深い分析が必要になる点もあるが、調査の社会的意義をふまえ、公刊することにした。

本報告書は、社会的意義だけでなく、学問的意義ももっている。従来、アイヌ民族に関する研究は主として歴史学、考古学、人類学等の分野で進められてきた。その対象は、過去の事実や伝統的な事柄であることがほとんどであった。そのため、現代のアイヌについて議論する場合にも、かつてのステレオタイプ化されたイメージをもとに行われることが少なくなかった。今回の調査では、これまでの研究とは異なり、社会学の立場から現代に生きるアイヌの人々の生活と意識に焦点をあて、その特徴を明らかにしようとした。本報告書は、アイヌ研究のなかで手薄であった現状分析に関する試みであり、アイヌ研究を前進させる一つのきっかけになるであろう。

なお、今回の量的調査では十分に踏み込むことのできなかった事柄については、2009年にインタビュー調査を行うことによって補完しており、その結果も追って公刊する予定である。

本報告書のもとになったアンケート調査にあたっては、多くのアイヌ民族の方々に協力していただいた。また、調査の実施に際しては、北海道ウタリ協会事務局が全面的に支援してくださった。調査の対象となっていたいただいたアイヌ民族の方々、北海道ウタリ協会事務局の皆様、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

2010年にはアイヌ政策推進会議が新たに設置され、アイヌ政策の具体化が図られることになる。それに伴いアイヌ民族の現状や課題を把握することがますます重要な意義をもつことになるであろう。本報告書がアイヌ政策の推進に少しでも貢献できれば、幸いである。

北海道大学アイヌ・先住民研究センター長  
常本照樹